

令和5年度 病害虫発生予察情報

注意報 第3号

令和5年9月27日
発表：福島県病害虫防除所

ハスモンヨトウの誘殺数が急増しています！
施設栽培への侵入防止対策を徹底して被害発生を防ぎましょう！

- 1 対象作物：野菜類・花き類
- 2 病害虫：ハスモンヨトウ
- 3 対象地域：浜通り
- 4 発生量：多い

[予報の根拠]

浜通り地方に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップの誘殺数が急増しています。9月2半旬～3半旬にかけて相馬市では444頭、9月3半旬～4半旬にかけていわき市では581頭誘殺されています。多発年（2020年）急増時の誘殺数（相馬市97頭、いわき市51頭）を大幅に超え、過去10年間で最も多くなっています（図1、2）。

仙台管区气象台が9月21日に発表した1か月予報では、気温がかなり高く、本種の発生が助長されると考えられます。

[防除対策]

今後、更に発生が増加するおそれがあります。また、本種は休眠性がないことから、温度が保たれる園芸施設内に侵入すると冬期間も加害されます。

- 1 本種は広食性で、多くの農作物を加害します。既にダイズなどの露地栽培では発生を確認しており、発生動向に注意してください。特に被害が懸念される施設園芸品目としては、イチゴ、トマト、トルコギキョウなどで、今後の発生動向を注視する必要があります。
- 2 本種は卵塊で産卵し、若齢幼虫は集団で葉肉を食害するため、表皮のみを残し、葉が白くなります。ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください（写真2、4）。
- 3 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が悪くなるため、若齢期の幼虫が集団で加害しているうちに薬剤散布をしてください（写真3）。
- 4 葉裏や株元など薬剤のかかりにくい部位にも寄生するので、薬剤は丁寧に散布してください。薬剤抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
- 5 施設栽培では、開口部に1mm目合いの防虫ネットを設置し成虫の侵入を防いでください。なお、防虫ネット上に産卵し、孵化した幼虫が施設内に侵入することがあるので注意してください。イチゴ施設内で発生した場合は越冬し、次作の発生源となるので防除を徹底しましょう。

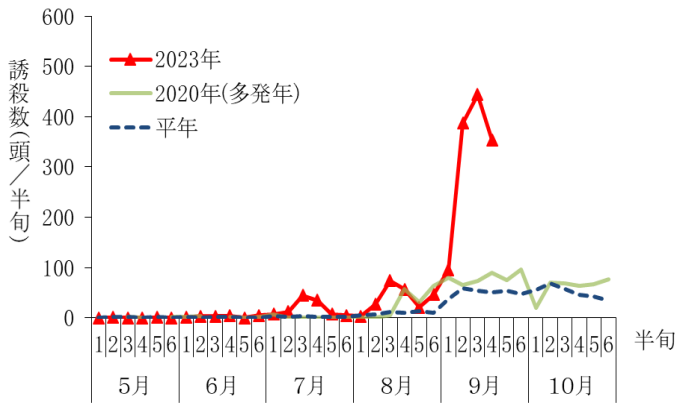


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(相馬市南飯淵:イチゴ)
注) 平年12~19年は相馬市和田

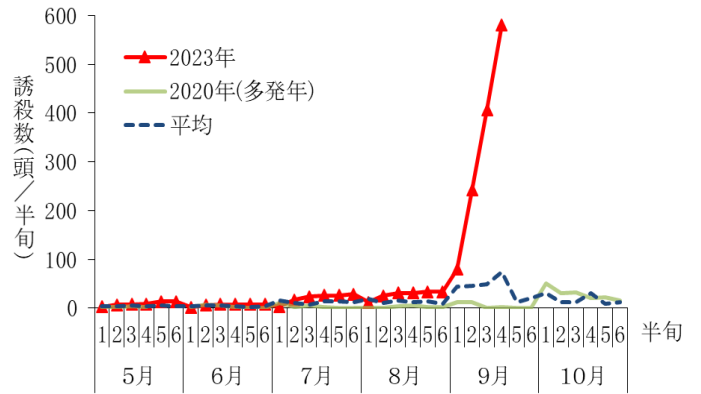


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(いわき市平菅波:イチゴ)
注) 平年13~17年はいわき市下大越



写真1 ハスモンヨトウ終齢幼虫



写真2 トルコギキョウの被害葉



写真3 孵化直後の若齢幼虫 (イチゴ)



写真4 イチゴの被害葉 (白変葉)

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病虫害防除所)まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727

E-mail: yosatsu@pref.fukushima.lg.jp